

## グローバルレスポンシブルビジネス

地球規模でサステナビリティに配慮した企業経営が求められる中、グローバルな視点で企業が社会的責任を果たしていくことは、より一層重要な課題となっています。富士通グループはグループ横断で重要課題の見直しに取り組み、「グローバルレスポンシブルビジネス」という名称で再設定しました。

### 富士通グループのサステナビリティ活動

#### CSR基本方針の制定

2010年12月、国内外で高まるCSRの要請に応えるべく、富士通グループは「CSR基本方針」とその実践にあたって優先的に取り組むべき「5つの重要課題」を制定しました。その制定に当たっては、社内のCSR推進タスクフォースの下に設置された基本戦略ワーキンググループにて、GRIガイドラインなどのグローバルなCSR規範や社会課題を認識し、あわせて、外部有識者より富士通グループへの期待と要請についてヒアリングを行いました。同時に、2020年を達成年度とした中期目標を掲げ、経営と一体となったCSR活動を推進してきました。

#### CSR基本方針

富士通グループのCSRは、FUJITSU Wayの実践です。

すべての事業活動において、マルチステークホルダー\*の期待と要請を踏まえFUJITSU Wayを実践することにより、地球と社会の持続可能な発展に貢献します。

CSRの実践にあたっては、重要課題を制定してこれらの課題への対応を通じて、グローバルICT企業として責任ある経営を推進しています。

\*富士通グループのステークホルダー：富士通グループは、「お客様」「社員」「取引先」「株主・投資家」「国際社会・地域社会」をステークホルダーとしています。また、特に「政府」「NPO」「NGO」なども「国際社会・地域社会」の中の重要なステークホルダーと考えています。

#### 世界の変化

2015年、持続可能な開発目標（SDGs）やパリ協定の採択によって世界規模の社会課題解決に向けた取り組みへの加速が期待されましたが、気候変動は科学者の予測を超えるスピードで進んで気候危機の域に近づき、また、格差や貧困の問題も拡大するなど、社会課題の深刻度は増す一方となっています。さらに、政治の世界での保護主義や一国主義の台頭は世界の分断傾向を推し進め、課題解決に向けた国際協調を難しくしています。

そのため、グローバルに事業を行う民間企業に対しては、社会の一員としてこれまで以上に社会課題に積極的に取り組むことが求められています。SDGsの達成年度である2030年に向けた「最後の10年」の間に、どれだけ事業活動による社会へのマイナスの影響を最小化し、かつ、グローバルにインパクトのある活動を実践して目標達成に貢献するか、社会の監視の目は厳しさを増しています。

#### 重要課題の見直し

このような世界の動きの中、お客様やパートナー企業、投資家をはじめとするすべてのステークホルダーから富士通グループを「責任ある企業」として認め続けていただくためには、これまで以上に自らの行動を加速してグローバルなサステナビリティ活動の実効性を高めていく必要があります。

そこで、ここ数年の富士通のビジネスの変化も反映させるべく改めてグループ横断でのマテリアリティ分析を実施し、その結果を踏まえて、CSR基本方針の下「グローバルレスポンシブルビジネス（Global Responsible Business：GRB）」という新たな名称で、グローバル共通のサステナビリティ重要課題を再設定しました。

### グローバルレスポンシブルビジネス

#### 重要課題

ICTによる社会・経済インパクト	ICTを活用したSDGsをはじめとする社会課題解決への貢献
人権・多様性	AI時代の人権尊重とグローバルな多様性の追求
ウェルビーイング	従業員の成長の実現とその力を最大限に発揮できる機会の提供
環境	脱炭素社会の実現および気候変動への適応に貢献
コンプライアンス	あらゆる事業活動における高いレベルの企業倫理の意識と誠実な行動
サプライチェーン	サプライチェーンにおける責任ある調達の実現
安全衛生	安全で健康的な職場環境の提供
コミュニティ	豊かで夢のある社会の構築に役立つ社会貢献活動の推進

#### 非財務分野の取り組み強化

2019年9月に発表した経営方針では、グローバルレスポンシブルビジネスを非財務分野の経営目標として位置付けました。上記の表のとおり、グローバル統一のサステナビリティ重要課題を設定し、財務（事業）分野に加えて非財務分野の取り組みを強化することで、富士通グループは企業価値の持続的な向上を図ります。

グローバルレスポンシブルビジネスの目的は、FUJITSU Wayの実現に必要なマインドセットとカルチャーの醸成、そして、グローバルな事業活動の前提となる社会的信用の獲得・維持です。全グループ社員が「企業は社会の一員である」と常に意識し、利益追求のみではなく、事業活動から生じるサステナビリティの負の影響を低減し、正の影響を最大化していくことを目指しています。

今後は、重要課題ごとに2031年3月期末を最終達成期限とする目標を定め、目標達成に向けて実効力のあるマネジメント体制を構築していきます。各国国内法や労働市場など国・地域ごとの違いを踏まえつつ、グローバルでより高

いレベルの活動が実施できるよう、本社の担当部署を中心に海外の各地域担当者も含めて目標を設定し、目標達成に向けた具体的なアクションについて検討を進めていきます。

また、グローバルレスポンシブルビジネスの進捗状況は、社長を委員長とする社内委員会で定期的に確認し、経営方針レビューや各種媒体を通じて公表していきます。

#### 「最も尊敬され、選ばれる企業」へ

富士通グループは、社会のエコシステムに不可欠な存在としてお客様やお客様の先にある社会が直面する課題の解決を主導する企業へ変わっていくことを目指しています。

そのためには、グローバルレスポンシブルビジネスのフレームワークを通じて社会への共感と洞察を深め、サステナビリティに配慮した企業経営に取り組んでいく必要があります。

富士通グループ一丸となってグローバルレスポンシブルビジネスを推進することで、社会から「最も尊敬され、選ばれる企業」となれるよう、今後も努力を続けていきます。

